

災害時の対応と備え

～血液製剤をお届けするために～

◎八代 進¹⁾日本赤十字社 東海北陸ブロック血液センター¹⁾

2024年1月1日（月）16時10分、石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震が起こった。津波や地震による家屋の倒壊が相次ぎ、死者が240人を超えて交通網も寸断されるなど、奥能登地域を中心に甚大な被害が発生した。

同日18時頃、輸血用血液製剤の供給業務を行う石川県血液センターでは、災害対策会議が開催された。その時点では、能登地区の医療機関のうち3施設では電話が不通であり状況が確認できなかった。また、県内の県道、国道、北陸自動車道が陥没や崖崩れのため多くが通行止めとなっていることが分かった。

一方、輸血用血液製剤の製造業務を行う東海北陸ブロック血液センター石川製造所では、製造作業室の被害状況調査を行い、血小板振盪機の転倒による機器の損傷、放射線照射装置など据付位置からの移動があるものの、製造業務は継続可能であると判断された。しかし、一部の機器の使用可否の判断には業者点検が必要であるため、翌日の採血及び製造業務を中止することとなった。

地震以外にも東海北陸地方は台風、雪害などの災害が起こりうる地域である。日本赤十字社の血液事業は、災害時にも関係各位のご協力をいただきながら、血液製剤を必要としている医療機関にお届けする責務がある。

当日は、災害時の対応と備えについて能登半島地震での事例も含めて紹介いたします。皆様と一緒に災害時の輸血を考えるきっかけになれば幸いです。